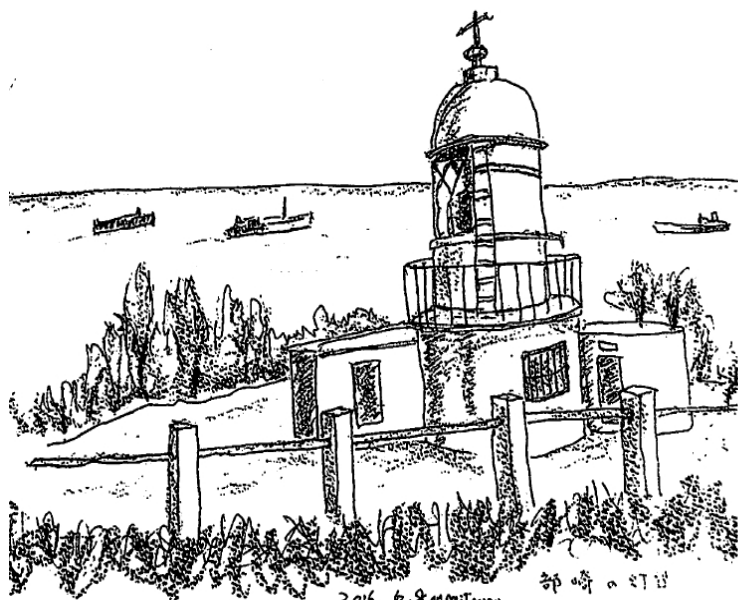


週報2020年5月31日



2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙 3章 15節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



2020年5月31(日) 聖日礼拝

前奏	力丸勝子 師
お祈り	山崎銀次郎 牧師
聖句唱和	コロサイ人への手紙 3章 15節
讃美	新聖歌 416「聖霊来たれり」
聖書朗読	使徒の働き 2章 1～13節
説教題	「魂の収穫を祝う」
お祈り	御言葉の応答の祈り
讃美	新聖歌 409「燃ゆる御霊よ」
お祈り	終祷（派遣と祝福の祈り）
後奏	力丸勝子 師
報告	山崎銀次郎 牧師

交わりの三省

- *互いに愛し合っていますか
- *互いに赦し合っていますか
- *互いに祈りあっていますか

説教要約

使徒の働き 2章 1～13 節

I 導入

「魂の収穫を祝う」

イスラエル民族にとって五旬節は本来、収穫物を祝う収穫祭でした。過ぎ越しの祭りの中で、初穂の祭りというものがあります。そのお祭りは春に収穫された大麦の束を初穂として神の前に捧げます。そしてそこから7週間後の50日目、五旬節というお祭りをします。和解のいけにえと小麦にパン粉をいれたパンを二つ、主の前に捧げます。彼らにとって収穫をお祝いする事はとても大きな意味があります。過ぎ越しを経て出エジプトに導かれた民が、贖い出して下さった主に、今、収穫できる事を感謝する。これが五旬節です。新約時代、五旬節(ペンテコステ)は聖霊が注がれ、教会の誕生をお祝いする日となりました。過ぎ越しの祭りの時、イエス様は苦しみを受け、十字架にかかけられました。そして3日目にあたる最初の安息日に、イエス様はよみがえられました。魂の収穫者の「初穂」として主の元(天)に帰られました。そしてその7週間後、50日目にあたる五旬節の日に聖霊が注がれました。弟子達は聖霊体験によって、神の救いの証言者となりました。その結果、その日3000人が救われたのです。つまり聖霊が注がれたことによって、ユダヤ人も異邦人も一つの神の民とされた事、そして魂の収穫を共に祝う事。これがペンテコステです。現在もペンテコステは祝われています。今日世界中のキリスト者がイエスキリストによる贖いによって神の民とされたことを喜び、この日をお祝いしています。そして各地で神の民が日々増し加えられるよう祈りの手が挙げられ、福音宣教は展開されています。こうして魂の収穫はこれからも進められていくのです。この魂の収穫のカギを握るのは聖霊の満たしです。

II 本論 (証し)

私が聖霊のバプテスマを受けたのは、18歳の時でした。何度もお話しさせて頂いている事ですが、教会から離れていた時、教会学校の先生方のお祈り、教会全体のお祈りによって、又戻ってくることが出来ました。つまり先に聖霊を受けた人々の熱心な祈りによって、私自身、聖霊体験へと導かれていったのです。その様な中で自分には聖霊が必要だと

わかり、お祈りするようになりました。そこで自分が神様の愛から離れていた罪びとであることがわかり、悔い改めの祈りをしました。夏の青少年キャンプの時でした。そこで私は聖霊のバプテスマを受けました。その時わかったことは、神の深い赦しと、私には神様が用意した計画があるという事でした。「この恵みを同じように他の人にも知ってほしい」私は教会学校の先生に加わり、教会の祈祷会に加わり聖霊の満たしを更に求めて祈るようになりました。ある祈祷会でその祈りの空気の中で「自分はこんなにも祈られていたんだ」という事に気付かされ涙したことがありました。ある時期、教会に次々と青少年が導かれて行きました。数年間、中高生キャンプに30名近く母教会から参加していました。その中でそれぞれの主の導きの中で悔い改め、涙を流しイエス様に立ち返って行きました。そのようにして聖霊を受けた中高生達が自発的に祈祷会を持つようになりました。そこでその参加した中高生は神様から受けた恵みを分かち合い、さらに救われる人が起されるように一緒にお祈りするようになりました。この祈祷会は今も続けられているそうです。そしてこれはペンテコステの恵みの中で起こされた一つの証しです。

III 結び

今日のテーマは「魂の収穫を祝う」です。その裏にあるテーマは「私達は何によって心の豊かさを得るか?」です。イスラエルの民は心と魂を本当の意味で豊かにして下さる神様から離れ、偶像礼拝に陥りました。多くの収穫物を得る事に執着し、自分の心だけを満足させるようになった結果です。しかし神様の愛は決して変わりません。神様は散っていくイスラエルの民を何度もご自分の許へ導き続け、永遠の愛を、聖霊を通じて注ぎ続けたのです。私達は何度でも主に召し集められます。迷いや弱く弱い私達を導き続け、本当の愛と平和を心に満たし続けて下さる方です。その時、私達の心は主に立ち返り、神の福音の為に生きるキリスト者として新しく生まれ変わらせて下さいます。これがペンテコステの恵みです。私達はイエスキリストの恵みにより神の収穫物なのです。今、聖霊の満たしを受け、共に新しい魂の収穫を求め出ていきましょう。私達の周りには、主の恵みを知らない家族、友人、仲間がいます。世界に目を向ければ主の愛を知らない人々がたくさんいます。その方々と又同じ主の恵みを分かち合う事が出来るように、聖霊の力を受けて、共に主を見上げ前進してまいりましょう。

新聖歌 416「聖霊来たり」

- 1 何処にある島々にも 何処に住む人びとにも
喜ばしく宣べ伝えよ 聖霊来れり
※ 聖霊来れり 聖霊来れり
天降りし慰め主 地の果てまで
宣べ伝えよ 聖霊来れり
- 2 暗き夜は開け放たれ 嘆く声も今は止みて
目に入るもの皆輝く 聖霊来れり ※
- 3 君の君に解き放たれ 自由なる身とせられし者
勝利(かち)の歌を高く上げよ 聖霊来れり ※
- 4 いとも深き愛と恵み いざ迷える罪人らに
語り告げて神の子とせん 聖霊来れり ※
- 5 み使いらも神の民も 無限の愛をほめたたえて
天に響かせ地に満たせよ 聖霊来れり ※

新聖歌 409「燃ゆる御霊よ」

- 1 燃ゆる御霊よ ここに來りて
われに榮えを 仰がせ給え
※ 御霊の神よ ここに來りて
奇しき御業を 行ない給え
火を火を 火を待つわれに
- 2 祭壇の上に この身も魂も
良きも悪しきも ことごと献ぐ ※
- 3 すべてのを献げ 空しきわれに
御名のため今 満ちさせ給え ※
- 4 贖いませる 賜物を今
信仰の手もて 迷わず握らん ※

使徒の働き 2 章 1～13 節

【新改訳改訂第3版】

2:1 五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。

2:2 すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、
彼らのいた家全体に響き渡った。

2:3 また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。

2:4 すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話した。

2:5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国から来て住んでいたが、

2:6 この物音が起こると、大ぜいの人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、驚きあきれてしまった。

2:7 彼らは驚き怪しんで言った。「どうでしょう。いま話しているこの人たちは、みなガリラヤの人ではありませんか。

2:8 それなのに、私たちめいめいの国の国語で話すのを聞くとは、いったいどうしたことでしょう。

2:9 私たちは、パルテヤ人、メジヤ人、エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポントとアジヤ、

2:10 フルギヤとパンフリヤ、エジプトとクレネに近いリビヤ地方などに住む者たち、また滞在中のローマ人たちで、

2:11 ユダヤ人もいれば改宗者もいる。またクレテ人とアラビヤ人なのに、あの人たちが、私たちのいろいろな国ことばで神の大きなみわざを語るのを聞こうとは。」

2:12 人々はみな、驚き惑って、互いに「いったいこれはどうしたことか」と言った。

2:13 しかし、ほかに「彼らは甘いぶどう酒に酔っているのだ」と言ってあざける者たちもいた。